

# コロナ禍、地域全体に支援

## 超スマート自治体に変革 手続きオンライン化図る



▲記者会見する徳永市長

「戦いたい」と話しています。マイタウンは、徳永市長が掲げる3つの政策の柱や瀬戸内クロスポイント構想についてインタビューしました。

**記者・竹葉** 本日はお忙しいところ、ありがとうございます。早速ですが、徳永市長の掲げる施策について伺いたいと思います。

**市長・徳永繁樹** 3つの柱の内の1つ目は「市民が真ん中」の視点で、市民の役に立つ市役所を目指します。例えば先日、ある方から市役所1階

の女性トイレが使いつらいたし指摘があり対応をいたしました。日常の慌ただしさの中で、今まで忘れていたり、気付けていなかったことをしっかりと見つめ直し、市民満足度の高い市役所に体質変革をしていきます。市民参加の市制運営は特に重要で、市民の意見を聴取する仕組みづくりを考え、皆さんの声を反映し形にするなど、質の高

い市民サービスを提供する、超スマート自治体へ変えていきます。

**記者** 市役所にも4月からデジタル戦略室が設置されていますが、超スマート自治体とは何かを具体的に教えてください。

**市長** AIなどの技術を活用したサービスや事業のデジタル化の推進です。各種申請手続きのオンライン化、市税などのキャッシュレス納付など、いつでも相談に対応できる窓口の設置、手続きの簡素化効率化を図ります。3月からはマイナンバーカードを利用すれば、コンビニに設置しているマルチ

カードを利用すれば、コンビニに設置しているマルチカードを利用すれば、コンビニに設置しているマルチカードもいち早く設置しました。365日いつでも相談に応える総合相談窓口も必要です。

「瀬戸内クロスポイント構想」は、今治市が瀬戸内海の「へそ」に位置する立地条件を生かし、地域で所得を循環させ、地域経済の活性化を目指すものです。へそであるにも関わらず、現在は資金消費、投資が外へ流れていまます。流出を流入に変え、今治市を製造・物流・デジタル観光の拠点にします。特にコロナ禍によるタオルや造船、飲食店など今治の経済への影響は非常に深刻です。それぞれの業界で御用聞きをしながら、地域全体をカバーし、現状の対応、そしてアフターコロナの時代への準備も必要です。

# 「市民が真ん中」の市政を

昨年から続く新型コロナウイルスの感染拡大がやまない中、市民生活や地域経済も苦境が続いています。そんな厳しい状況のなか、今年2月に就任した徳永繁樹市長。「今治市の未来が持続可能な経済循環するまちとして発展し続けるよう挑



**徳永 繁樹 市長**  
平成15年、愛媛県議会議員選挙に立候補し初当選以来、5選。今治市長選挙に立候補を表明し、令和2年12月、県議を辞職。令和3年2月の今治市長選挙で初当選。野球少年でポジションはピッチャー。スポーツ全般、観戦も趣味。

めるようトップセールスを展開し、情報発信と販路開拓を行っていきま

**記者** 今治には、しまなみ海道など資源も豊富ですが、課題や今後の展開として何か施策はありますか？

**市長** まず、生活道としてのしまなみ海道の通行料金の問題です。島しょ部の皆さんから通学や病院への通院など橋の通行料金が生活費に占める割合が大きいと聞いています。時間がかかる問題ではありますが、実質無料化という目標に向け、できることから負担の軽減を検討していきます。また岡山理科

大学今治キャンパスなどを核としたまちづくりや、FC今治と連携したスポーツの振興も取り組んでいきます。

医師の派遣を拡充し、医療体制も整えています。高齢者への支援や発達支援、重度心身障がい児への支援体制の充実など、共生できる社会の実現を目指します。防災に関しては今治市総合防災マップを作成し各戸に配布したいと考えています。また感染症予防に対応した避難所の運営体制を充実させるため、公民館のトイレの洋式化や防災ラジ

## 今治を物流・観光の拠点に

### 瀬戸内クロスポイント構想

最後に、これからはウィズコロナ・アフターコロナへの対策と、直面する人口減少、少子高齢化など、幅広い課題への政策を並行して進める必要があります。しかし、どんな厳しい状況でも愛する今治の街、市民を守るため、皆さんの声と自らの行動力で「未来への新しい風」を起こし、共に今治の街を変えていきたいと思えます。ご協力を宜しくお願いたします。